## 第11回淡水ガメ情報交換会 発表プログラム(仮)

3月15日(土) 13:30~17:00

## 外来種シンポジウム 「ニホンイシガメをクサガメからどうまもるか」

司会進行谷口真理(淡水ガメ情報交換会実行委員)

クサガメは古くから日本人に親しまれてきた動物ですが、主に2011年以降の様々な分野の研究結果から、日本列島に生息するクサガメは中国大陸や朝鮮半島から移入された外来種であると、近年認識されるようになりました。一方で、日本列島のクサガメが在来である可能性が完全に否定されたわけではないという一部研究者の意見が存在することも事実です。また、一般市民の感覚で考えれば、古くから生息し、馴染みの深いカメなのに、いったい何が問題なのか?ということがわかりにくい側面も存在します。そこで、淡水ガメ情報交換会では、クサガメに関するシンポジウムなどをこれまで複数回開催し、その問題について考える場を設けてきました。今回のシンポジウムでは、日本列島のクサガメがどのような研究結果に基づいて外来種であると提唱されているのか?また、外来種であるクサガメが、日本列島に固有に生息する二ホンイシガメに与える影響はどのようなものか?ということを改めておさらいしたいと思います。その上で、最新の研究結果である「クサガメによるニホンシイガメにおける遺伝的撹乱の実態」について紹介していただき、クサガメの侵略性について再認識したいと思います。加えて、クサガメ問題に先駆的に取り組む福井県敦賀市中池見からの事例も紹介していただき、我々が今後取り組むべきニホンイシガメの保全に対するクサガメ対策について考えたいと思います。いろいろな情報が溢れ、適切に判断することが難しい昨今ではありますが、今回のシンポジウムで、科学的根拠に基づいた知見が適切に普及し、クサガメ対策が、ひいては二ホンイシガメの保全対策が前進していくことを期待します。

招待講演 「クサガメによる二ホンイシガメにおける遺伝的撹乱の実態」 松田悠之介氏

事例紹介1 「クサガメ侵入!ラムサール条約湿地『中池見湿地』での対策と現状」

藤野勇馬氏(中池見ねっと)

事例紹介2 「中池見湿地での調査のきっかけとクサガメ・雑種防除の合意形成について」 西堀智子氏(和亀保護の会)

事例紹介3 「なぜクサガメを排除するのか? 二ホンイシガメに与える潜在的な影響と保全効果」 加賀山翔一氏(淡水生態研究所)

## 3月16日(日) 各地からの発表 9:30~16:00

- ◆セッション1 9:30~
- S1-1 淡水棲カメ類の細菌感染症と治療薬の薬剤疫学 中村有加里・深瀬 徹(岡山理科大学獣医学部)
- S1-2 アライグマに食害されたと思われる二ホンイシガメ等 菊水研二 (アライグマ防除研究会)
- S1-3 犯人は?イシガメを急激に減らす外来種と緩やかに減らす外来種

西堀智子12・加賀山翔一2・松本健二12・長谷川雅美12(爬虫両生類情報交換会1・千葉県二ホンイシガメ保護対策協議会2)

- S1-4 生物多様性に配慮した公園で二ホンイシガメを守る〜井の頭池の取り組み〜 八木愛(生態工房)
- ◆セッション2 10:56~
- S2-5 神戸市の外来生物対策の取り組み 神戸市環境局自然環境課
- S2-6 神戸市神出町内のため池におけるアカミミガメ駆除 佐藤厚仁(レプタイルズ)
- S2-7 神戸市立相楽園における二ホンイシガメの域外飼育と環境DNAの研究 阿部慧琉・清水まどか・中谷卓司(神戸山手女子中学高等学校)
- S2-8 二ホンイシガメの保全の試みと課題(続報) 三根佳奈子・谷口真理(自然回復)

## 唇休憩

- ◆セッション3 13:10~
- S3-9 続・江戸の町のどこにイシガメがいたのか

後藤康人(えどがわ生物懇話会)・辻井聖武(自然教育研究センター)

- S3-10 印旛沼流域手繰川のクサガメの食性調査 小川結葵凪・児島庸介(東邦大学理学部生物学科)
- S3-11 野生下における淡水カメ類の餌資源を巡る関係について

河原優介・亀崎直樹(岡山理科大学動物自然史研究室)

S3-12 ミシシッピアカミミガメの餌志向性の個体差につい 杉田渓翔・亀崎直樹(岡山理科大学動物自然史研究室)

- ◆セッション4 14:36~
- S4-13 タイ体験記 鈴木大(東海大学生物学部生物学科)・谷口真理(自然回復)
- S4-14 岡山県八塔寺川に牛息している二ホンイシガメの成長速度と移動

妹尾太陽・亀崎直樹(岡山理科大学動物自然史研究室)

- S4-15 二ホンイシガメの記憶力と社会学習能力について 木原来翔(京都大学大学院)
- S4-16 平均気温の上昇が淡水性カメ類の産卵に与える影響 竹田正義(姫路市立水族館)

閉会 16:00